

ウイングフィールド提携公演

作・演出／棚瀬美幸

3/2(金) 7:30 「さらば、わがまち」

3(土) 3:00☆
7:00

出演／南船北馬

4(日) 11:00 ☆=未就学児も観劇いただけます。膝上観劇なら料金不要。
3:00 要事前問い合わせ。(劇団) 06-6730-1773料金／前売 2,500 円 当日 2,800 円 ペア (前売のみ) 4,000 円
高校生以下 1,500 円 (要証明証)

7(水) 7:30 ウイングフィールド提携公演

8(木) 3:00 作・演出／後藤ひろひと (Piper)

7:30 「財団法人親父倶楽部～死んだと思って生きてみる～」

9(金) 7:30 出演／プロジェクト KUTO-10

10(土) 3:00
6:0011(日) 3:00
6:0012(月) 1:00 料金／前売 3,500 円 当日 3,800 円
5:00 前売学生 2,500 円 当日学生 2,800 円 (要学生証)

ウイングフィールド提携公演 深津演劇祭～深津篤史コレクション舞台編～参加

作／深津篤史 演出／杉山晴佳

16(金) 7:30 A 「五軒町商店街寄合会」

17(土) 3:00 B 7:00 B 出演／あうん堂

18(日) 3:00 A A.B = ダブルキャスト

料金／一般前売 2,800 円 一般当日 3,300 円
学生前売 1,800 円 学生当日 2,000 円 (要証明証)

ウイングフィールド提携公演 深津演劇祭～深津篤史コレクション舞台編～参加

作／深津篤史 演出／森本洋史

25(日) 1:00 「深海魚」

5:00 出演／桃園会

26(月) 2:00
7:30 料金／前売 3,000 円 当日 3,300 円
27(火) 2:00 20 歳以下 500 円 (前売当日とも、要証明証)
ペア 5,000 円 (前売・予約のみ)

25(日) 7:30 深津演劇祭後夜祭 ～深津戯曲を語る夜～

料金 カンパ制

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイングフィールド

〒542-0083 大阪府中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://www.wing-f.co.jp>

2月末日よりウイングフィールドのメールアドレス、ホームページアドレスが変更となります。

Mail: office@wing-f.main.jp <http://wing-f.main.jp/>

感無量寿経 その209

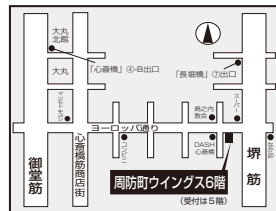
季節も春ということ

島原 夏海

3月、出会いと別れの季節ということで、私の甘酸っぱい思い出を、恋愛コラム風にお送りします。神聖なウイングフィールドの月刊紙で何を書いとんねんと周囲の方から怒られそうですが、私には語れるものが何もなかったの、照れ隠しとしてお許ください。

19歳の時、長い間付き合っていた人と別れた。大失恋を経験した。当時の私にとっては彼以上にかっこいい人なんていなくて、彼と結婚するという未来を信じて疑わなかったのだ。それからしばらくは心癒えず、アホほど aiko の「雲は白リンゴは赤」と HY の「366日」を聴いては泣いた。砂浜に名前を書いて流すという死ぬほど恥ずかしいことも真顔でやった。京都の夜の海だった。みんなで楽しく火花をしていた時に、いきなり奇行に走った私を見た友人はちょっと引いていた。

20歳の時、少しヤンチャな人と一瞬付き合っていた。友人の前では凄くイキるのに、私の前ではすぐに泣く。「喧嘩する時にメリケンサックを持っている」と、結構ダサイアピールをする彼のことを、私はあまり好きではなかったのですぐに別れ話になった。泣きながら「嘘でもいいから好きだと言って」と言われたと友人に話すと、友人はすぐにその言葉でラップとその動画を送ってきた。名作だった。



21歳の時、3歳年下の高校生と付き合い始めた。彼が大学を卒業する時まで付き合っていたから、4年は付き合っていた気がする。彼はテニスが大好きな純朴少年。私が初めての彼女で、私と結婚するという未来を信じて疑わなかったんだと思う。しかし薄情な私は彼のことが段々好きではなくなっていった、彼が大学4年の夏、別れ話を切り出した。彼は卒業後就職して滋賀に行ったが、寂しさのあまりめっちゃ怪しいイベントサークルに入り浸り、アムウェイの会員になった。1年振りぐらいに私に連絡してきたと思ったら「なっちゃん、そういえばニキビ多かったよね?」と、まさかの化粧品販売の連絡だった。純朴少年が随分と変わってしまったショックとともに、私のせいでこうなったのではないかという罪悪感も生まれた。イベントサークルのハロウィンパーティーで嬉々として女装をしている写真がタイムラインに流れてきて、何だかもう一周回って彼が幸せそうに見えて目を伏せた。

以降、現在に至るまでは最近のことなので伏せるが、恋愛経験というのはいいことも悪いことも全て含めて、表現者としての自分の肥やしになると、私は心の底から思っている。何より後から振り返ると珍事件・珍行動が多い。でも当時は真剣だからこそ面白い。そして何よりその瞬間は「自分」と「他者」を物凄く意識する。「他人」というものを理解し、また理解してもらおうと、一番頑張ってみる時なのではないかと思う。たとえその関係が、最後には壊れてしまったとしても、経験の中で生まれた感情というのは、演劇においては物凄く貴重で大切なものだ。私は自分の人生は振って振られて、そんな振幅の多いものでありたいと思っている。北村想さんが以前こう話していた。「おいお前、鬱で恋愛拗らせてる奴は演劇では強いぞ」と。

だから明日旅立つそのあなた。最後に好きなあなたに当たって砕けるのもいいかもしれません。

まあ、そんな恋愛コラムみたいなん書いた私ですが、はよ嫁に行けと去年あたりから周りに急かされています。(無名劇団演出・役者・OL)